

令和4年 秋季農協座談会回答

JAは令和4年9月1日から14日に、秋季農協座談会を開きました。
座談会の席上でお答え出来なかった、ご質問、ご要望に対してお答えいたします。

【営農販売部門】

営農企画

問 施設などのもみ殻処理に苦慮しているが、圃場に還元することでケイ酸成分などの蓄積でメリットがあるのではないか。

答 施設などのもみ殻については、地元の農場などを中心に、畜産や養鶏の敷料として利用可能なため、施設毎に運搬し処理しています。一方、複数の施設においては、CE利用組合の方針のもと、組合員が自らの圃場へ還元する取り組みを行っています。もみ殻は分解するまでかなりの年月を要することから、圃場還元にあたっては毎年10a当り450kg程度までが適量とされています。わずかながらケイ酸分も蓄積されますが、土壤の「水はけ」や「団粒化」などの物理性の改善効果が認められていますので、所属するCE利用組合へご相談願います。

問 つや姫の生育が初期段階から劣るので原因究明や技術指導の徹底、資材の見直しなどを検討してほしい。

答 近年つや姫に限らず、初期生育の確保が課題となっています。収穫後の稲わらの腐熟対策と春の早めの耕起が重要となりますので、ぜひ実践くださるようお願いいたします。また、生産資材については、現地試験の実施を踏まえ、生産現場における実際の生育状況を熟視し3～4年サイクルで見直しを検討しています。

問 「はえぬき」より、売れる米として期待している「雪若丸」を作りたい。CEで荷受けできるようにしてもらいたい。

答 「雪若丸」のCEでの取扱いについては、まずはCE利用組合へご相談願います。「雪若丸」の作付けについては、山形県の販売戦略のもとに作付面積が決められており、未だ要望通りの面積が割り当てられてきておりません。引き続き、県へ希望の面積配分としていただくよう要請しています。

また、当JA産米の7割が直販であります。「はえぬき」も品質、食味などの安定性から需要が多く不足している状況にあります。従来同様、高品位米生産をお願いします。

問 産地交付金（ソバなど）に関して取組要件が厳しい。取組項目を少なくできないか。

答 産地交付金の取組要件については年々厳しくなっているため、取組要件の簡素化あるいは現状維持を要請しておりますが、最終的に財務省からの強力な指導により取組要件のハードルを上げられている状況です。来年度以降も地域の窮状を訴え働きかけを行ってまいります。

問 水張り5年問題についてはもっと強く国へ要望してもらいたい。

答 水田活用の直接支払交付金の見直しに関しては、5月に当JAと当JA農政対推進協議会の連名で、酒田市・遊佐町の両議会へ請願書を提出させていただきました。また、8月に開催された山形県JA代表者集会においても、JAグループ山形として県選出国會議員へ現場の実態を十分踏まえて検討するよう要請しております。引き続き、今後もそうした機会を捉え国へ訴え続けてまいります。

問 米の消費拡大に向けて、小麦に代わる米粉活用をさらに推進してほしい。また、子どもたちの食生活が変化しており、ご飯を食べる習慣づけのため、JA主導で「朝ごはんキャンペーン」などの取組みをしてもらいたい。

答 令和5年度から国も米の需給安定に向け米粉振興に本腰を入れ、水田活用直接支払交付金の見直しも念頭に、専用品種の導入や消費拡大に向けて支援を講じる予定です。

また、米の消費拡大については、JAグループを挙げて「国消国産」の推進を図ると同時に、JAグループ山形が掲げる「ごはんを中心とした日本型食生活」の普及活動を展開し、引き続き、各家庭や子どもたちに朝ごはんを含めたごはん食の大切さをPRしていきます。

担い手支援

問 インボイス制度について詳しく教えて欲しい。

答 インボイス制度については、研修会の実施及び広報などによる周知は行っておりますが、まだまだ制度内容を理解している方は少ないものと思われます。当JAといたしましては、より分かりやすい研修会の開催に向けて対応してまいります。なお、今年度の研修会を各々11月に、青申会・税対部会主催の個人向けの研修会、法人についても税理士を講師とした研修会を開催予定です。

米 穀

問 米価は、生産費を反映できるような交渉をしていただきたい。在庫が多いから下落・不作だから上昇するような市場原理だけでなく、生産者の費用がアップしていることを踏まえた価格交渉をお願いしたい。

答 全国的な販売環境については、古米の持越し在庫による過剰感から価格は停滞しておりますが、現在、販売先と価格交渉を進めているなかで、生産費の高騰など生産現場の声を最優先とした交渉に努めています。

問 米の概算金を座談会前に提示していただくよう強く要望します。

答 米の概算金につきましては、全農山形米穀運営委員会で協議決定後に、全農山形より示されますが、他産地、他品種の状況を考慮し決定されるため、9月中旬ごろとなるようです。JAとしても、できるだけ早く提示していただくよう要望しているところです。

問 米を高く販売する努力が不足しているように感じる。輸出に取り組むなど販路拡大に努めるべきだ。

答 米の価格については、全国的な市況相場に大きく影響されますが、既存の販売先と継続した取組みによる有利販売に努めています。また、輸出用米につきましてはコロナ禍の影響により輸送船のコンテナ不足や燻蒸施設の確保および検疫などの課題があります。今後、これらの諸問題がクリアされる見通しが立ったうえで、取組み拡大を検討します。

問 作況指数と実際の収穫量が乖離していることがあり、米価に影響するため適正な作況指数を発表するよう要請してほしい。

答 農林水産省が示す水稻の予想収穫量については、生育データ、気象データ、人口衛星データから作成され予測したものです。例年、地域の実態を考慮するよう依頼はしておりますが、引き続き実態に即した指数となるよう要請します。

園芸

問 砂丘畑の土壌診断を無料で行うことができないか。

答 全農で実施している土壌診断は無料で実施できますが、品目問わず各JAから依頼され、全農で受託できる点数も限界になっています。分析を受託できる点数は令和3年度の実施点数を基本としており、新規および追加は対応不可とされています。

このことを踏まえ、当JAでは指導担当職員が圃場で分析できる簡易土壌分析ツールを導入し、リアルタイム診断を検討しております。分析項目はpHとチッソ・リン酸・カリに限られますが、その場で分析結果がわかり、過去のデータとも比較できますので施肥設計の参考にできるのではと考えております。

【経済部門】

営農資材課

問 肥料の予約注文書が分かりにくいので、肥料と農薬資材などに分けて分かりやすくしてほしい。

答 以前は肥料と生産資材を2度に分けて予約注文の取りまとめを行っていましたが、1度で予約注文ができるよう集約した注文書の要望があり、現在の形式とさせていただきます。今後も見やすく分かりやすい注文書の作成に努めます。

問 化成肥料は価格高騰したが有機肥料は高騰していない。もっとそういった情報を発信してほしい。

答 海外からの輸入原材料が大半の化成肥料に比べ、国内原材料を含む有機肥料の値上げ幅は小さいようです。情勢などは随時皆さまにご連絡しておりますが、取扱数量が大きな情報が中心になってしまいました。今後は内容を検討し情報発信に努めてまいります。

問 今年の水稲用基肥で固結が多く、散布した圃場は斑な状態となってしまったが、補填は無いのか。

答 ご迷惑をお掛けし申し訳ございませんでした。同一肥料の固結に関する問い合わせが他にも数件あり、交換対応とさせていただきます。固結による散布後の補填は現在考えておりませんが、メーカーに対し発生原因と再発防止を強く要請しております。

問 メロン肥料も農協の垣根を越えて集約することで価格の低減を図ってほしい。

答 メロン肥料に関しても J A 毎に取扱い品目が多種多様に存在しているため、銘柄集約が前提と考えますので J A 全農山形へ強く要望していきます。

問 庄内柿が R 2、R 3 と 2 年連続で甚大な降雹被害があった。防雹ネット購入に対する J A 助成を強く要望する

答 近年、気象災害による各作物の被害が多く発生していますので、今後検討していきます。

問 国で示している肥料価格高騰対策の内容について説明してほしい。

答 国の支援内容は令和 4 年 6 月から令和 5 年 5 月までに購入した肥料が対象となり、化学肥料低減の取組みを行った上で前年度から上昇した肥料費の 7 割を支援金として交付する内容となります。現在行政と施肥低減の取組内容と必要書類の確認を行っている状況でありますので、詳細が決まり次第お知らせいたします。

農業機械課

問 農機センターが集約されたので、資材店舗での草刈機替刃などの取扱商品を増やしてほしい。

答 取扱商品を営農資材課と協議して資材店舗での品ぞろえを検討していきます。

問 農機具のオイル交換のやり方講習をしてほしい。そして廃油を手蔵田に持っていくのではなく回収場所を設けるなど処理の仕方を教えて欲しい。

答 現在、農機具のオイル交換に関する講習会は計画しておりません。農機具により交換するオイルの種類も多種多様のため、不具合防止も含め個々にお問合せください。
廃油については産業廃棄物のため、適正な処理が必要となりますので農機センターにご相談ください。

問 水分計を検査する場合、農機センターまで持っていかなければならないので、最寄りの資材店舗でも受け付けするなどの対応をしてほしい。

答 水分計の点検は間違いのない引き渡しを行うため、利用者確認をおこない持込引取りのご協力をいただいておりますが、次年度以降最寄りの資材店舗でも受け付けできる体制を検討していきます。

【管理部門】

問 総代会にて肥料や温床資材の価格高騰対策としてJA独自の支援策を検討しているとしていたがまだ示されていない。出資配当ではなく、肥料の手数料を下げてもらった方がありがたいが、JAとして何を検討しているか教えてもらいたい。

答 現在、国による肥料高騰対策が示されましたが、市町村やJAによる独自支援の、重複となった部分は国に返還を求められるなど、非常に複雑な制度となっております。当JAでは供給した肥料についての交付申請は生産者にかわり一括申請の予定をしておりますし、国の支援制度を最大限に利用しながら、JA独自支援として営農振興積立金を財源とし、米価下落や肥料、飼料、燃油の高騰を踏まえた、実のある次年度以降の再生産支援対策となるよう検討しており、年内中の実行を予定しております。

企画経理課

問 広報・ホームページのリニューアル。古さを感じるので今どきのものにしてほしい。

答 ホームページの内容は、グリーンプロジェクト情報や広報誌の記事を随時更新しております。ウェブサイト上のホームページをスマートフォンなどに対応することにより見やすく、そして、内容の充実と映えるページを幅広い視点で発信します。

人事教育課

問 共乾施設や米倉庫の作業員不足が深刻なのでJA職員から応援していただけないか。

答 共乾施設については、利用組合方式であり自主的な運営が基本となります。また、米倉庫の作業員不足については、JAの事業としても繁忙期でもあり、現状では常時応援体制を取ることは難しい状況にありますので、ご理解願います。

【総合対策室】

問 米の裁判について現在どのようになっているのか。今年中に和解案が出るのか。

答 裁判の件につきましては、皆さまにご心配をおかけしています。
原告側の第1次提訴（平成28年6月15日）から第8次提訴（令和4年7月5日）まで、原告人数が137名となっています。現在、和解と判決の両方を見据えて審理が進められていますが、争点整理ができ、原告側、JA側双方が和解の話し合いに応じるようであれば、年内中に裁判所の和解案が示される模様です。

【(株)みどりサービス】

燃 料

問 新平田松山SSのガソリン価格が他店より高い時がある。他店との看板価格は同じですが、実際給油に行くと格差があるので、無いようにサービスしてほしい。軽油も4円引きしても他より高い。

答 他店のイベント日と比べ、ガソリン・軽油の価格設定が高くなる場合もあります。新平田松山SSとしましても、さまざまなイベントでお得に提供させていただいております。また、12月に新平田松山SS10周年記念イベントを企画しております。今後も実のあるサービスを提供できるよう努力してまいります。

問 みどりサービスの給油所から購入したオイルの廃油を無料化するなどサービスできないか。

答 廃油は産業廃棄物処理法に基づき産廃業者に処理依頼しており、費用を要しております。ご指摘の商品については、低価格の料金設定をしておりますのでご理解お願いいたします。